

2020 8/11・25合併号

No.2120・2121

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



工場が集積し、日本の高度成長を支えた川崎臨海部も夜は表情が華やかに変わる。工場夜景は、公害というマイナスイメージを克服し、今や川崎を代表する観光スポットになった。



contents

視点点描	
あちこちのすずさんの夏	3
講演録	
地政学と日本の大戦略 コロナで変わったこと、変わらなかつたこと キヤノングローバル戦略研究所研究主幹 宮家 邦彦	4
講演録	
新型コロナウイルス～ 正しい情報で正しい行動を 川崎市健康安全研究所所長 岡部 信彦	7
新型コロナウイルス	
小池都政の何が問題なのか 陽性者、増加傾向の首都	10
政治双眼鏡	
コロナ禍の政治の怠慢	13
社会	
コロナ禍、大学教育の現状と課題 非対面授業に限界も	14
新型コロナウイルス	
「なぜ台湾は成功したのか」 コロナ対策で日本との違いは	16
国際「評伝」	
李登輝氏の「戦略的親日」 多面的なプリズム政治家	18
経済	
アベノミクス、官邸支配に亀裂 「強権の経済政策」を読む	20
くらし2020	
なぜ増えないPCR検査	22

事務局だより

◇2020年9月定例講演会
ユーチューブによるライブ配信で開催
配信日時 9月10日午後1～2時
講師は横須賀共済病院病院長の長堀薫氏
演題は「新型コロナウイルス医療現場からの報告」(仮題)

◇
※準備が整い次第、ご案内いたします。

【お知らせ】神奈川政経懇話会ではホームページ(www.kanagawa-seikon.jp)に会員コーナーを設けました。新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな情報を掲載します。問い合わせは事務局 ☎045(226)2121。

視点



あちこちのすずさんの夏

泣いて、怒って、懸命に生きた人たち。直接戦闘や空襲を体験していない人にも、戦時下の暮らしを語ってほしい。そういう思いが「あちこちのすずさん」という名称に込められている。

集まつた体験談は、ウェブ以外

にも、それぞれのメディアがそれ

ぞの分野で展開していく。神奈

川新聞でも募集告知を出し、投稿

欄「自由の声」ほかで展開してい

るが、年配の読者には「#あちこ

ちのすずさん」という言葉がいま

ひとつピンとこないらしい。読者

相談室には「すずさんって誰?」

「あちこちってどういうこと?」

という問い合わせ電話が来て、担

当者は説明に苦労している。

「伝える」ことの難しさを実感

したことから分かる人には分か

るだろうが、ウェブ上で若い人に

多く体験を共有してもらいたい

という企画で、NHKを中心に地

戦争が終わって（あるいは戦争に負けて）から75年。この夏、「#あちこちのすずさん」と銘打つて、

「戦時中の思い出」を募るキヤン

ペーンに神奈川新聞社も参加している。#（ハッシュタグ）が付いていることから分かる人には分か

ても、恋もすればおしゃれもした

い。ささやかな日常と、そんな

日々に影を落とす戦争を描いて、

多くの支持を集めた。すずさんの

ようにあの戦争の中で、笑って、

方紙など各種メディアが連携して

いる。

「すずさん」とは2016年に

公開されたアニメ映画「この世界

の片隅に」の主人公。戦時下であつ

たうが、ウェブ上で若い人に

多く体験を共有してもらいたい

という企画で、NHKを中心に地

中の思い出」宛てに、投稿が届く。

「今書かないと消えてしまう」と

の言葉とともに、長文の体験がい

くつも寄せられた。400字詰め

原稿用紙6枚に手書きの大作も

あった（投稿欄掲載時には規定行

数にまとめさせてもらった）。

毎年8月には「戦争」にまつわ

る投稿を呼び掛けてきた。しか

し普段の投稿とは別枠の「#すず

さん」「戦時中の思い出」への反

響に、「たまには、別の方向にボーリ

ルを投げてみないといけないな」と反省している。

ちなみに「この世界の片隅に」

は、テーマもさることながら、アニメとして高水準を誇る傑作だ

（アニメおたくとして断言する）。

お説教くさい平和教育や活動につ

んざりという人に、エンターテイ

メントとしてもお薦めしたい。

（神奈川新聞社編集委員

青木 幸恵）